

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 255. ホウライヤブクジヤク | 278. オホヘツカシダ    |
| 256. オホトキハシダ    | 279. オキノクリハラシ   |
| 257. オホバノヒノキシダ  | 280. コモチヘツカシダ   |
| 258. トキハシダ      | 281. イヌガンソク     |
| 259. ミヤマシダ      | 282. クサソテツ      |
| 260. ホソバノイハガネサウ | 283. カラクサイヌシダ   |
| 261. シノブ        | 284. ヨロヘンシラン    |
| 262. イハヤシダ      | 285. カウヤワラビ     |
| 263. ホソバシケシダダ   | 286. タカウラボシ     |
| 264. マキノシダ      | 287. アリノスノキシノブ  |
| 265. サケバマキノシ    | 288. ヒメタカノハウラボシ |
| 266. ヤブレガサウラボシ  | 289. カラクサキノデ    |
| 267. シラネワラビ     | 290. イタチシダ      |
| 268. タイフントネリコシダ | 291. マツザカシダ     |
| 269. クロミノイタチシダ  | 292. ナチシダ       |
| 270. ナガバノイタチシダ  | 293. イヌキノモトサウ   |
| 271. サカバシダモドキ   | 294. キクモバホラゴケ   |
| 272. トネリコシダ     | 295. ホソバホラゴケ    |
| 273. クマゲラシダ     | 296. ヒメホラゴケ     |
| 274. キリガタシダ     | 297. クジヤクホラゴケ   |
| 275. ツノマタコケシノブ  | 298. セリバホラゴケ    |
| 276. シモンコケシノブ   | 299. ウスイロコケシノブ  |
| 277. コケシノブ      | 300. トガクシデンダ    |

(田川基二)

**コスター氏**：——馬來群島の菊科植物 Joséphine Th. KOSTER :——The COMPOSITAE of the Malay Archipelago in Blumea Vol. I. no. 3. p. 351-536 (1935)

本論文は *Vernonieae* と *Eupatorieae* とを取り扱つたものであつて、合計 58 種中 11 種が輸入された植物である。地域を正確に云へば大スンダ列島、小スンダ列島、モルツカ群島をふくむ地域である。一体この地域は *Compositae* にとほしい事は BENTHAM 氏 (1873) の頃から既に云われてゐるのであるが、*Vernonia* と *Eupatorium* はアジアではこの地帯に以前から可成り澤山の種類が知られてゐる。外のものは少

Oct. 1935.

183

ないのであるが。コスター氏は *Vernonia* に 34 species を挙げてゐる、この中同氏の今度書いた新種は 13 種で同氏の以前に書いたもの 2 種を合して 15 種其の他變種もあるが、かく亞細亞では未だ菊科は研究されてゐないのは注目すべき事である。*Vernonia* で臺灣と共通のものは *Vernonia patula* MERR., *Vernonia cinerea* LESS., *Vernonia parviflora* REINW. (コスター氏は *V. cinerea* var. *parviflora* DC. とする) である。尙 *Vernonia* で *Congestae* といふ新節を設けた。

*Elephantopus scaber* L. はアジアの原産であることがわかつたと云つてゐる、そして變種を挙げてゐる、*Elephantopus tomentosus* (*E. mollis*), *Pseudelephantopus spicatus* ROHR. (*E. spicatus*) の三つもやはり臺灣にある種類である。*Adenostemma* に 5 種あるが中 *A. lavenia* O.K. は臺灣にある。*Ageratum conyzoides* L. *Ageratum Houstonianum* MILL. この二つは America 原産の輸入植物であるがこれも臺灣にある。*Eupatorium* では 8 種あるが臺灣とは共通のものはない。*Mikania cordata* (BURM.) ROBINSON (*M. scandens*) は臺灣にもある。

それからこれ等の植物で種々植物地理に言及してゐるが Von Malm (1934) がバリ、ロンボック間にフロリステックの境界がなく濕氣を好む植物に氣候的な境界があるだけであると云つてゐるがバリはロンボックよりも乾燥してゐると云ひコスター氏はこの二つの島を通じて分布せる種類を挙げてゐる。*Ethulia*, *Vernonia Jung-huhmiana*, *V. erigeroides*, *Congestae* がマレイ群島の乾燥地帯と其の分布区域を同じくするのは面白いといふ。オーストラリアと小スンダ列島とに共通種は少ない事を挙げてゐる。

(北村四郎)

## 萬國植物命名規則

(本誌 第四卷 第二號 113 頁に續く)

### (6) 雜種及び間種の名

第 31 條. 同じ屬の種間雜種又は雜種と想像されるものは一つの公式にて表し要用又は必要の時には名にて表す。

(1) 有性雜種 公式は兩親の名即ち種的性質形容詞をアルファベット順にし × の記號によつて結んだものである。雜種が實驗によりて出たものなる時は、公式は ♀, ♂, の記號を加へて一層精確にする、この場合雌 (種子をつける) 親が最初に置かれる。

(2) 無性雜種 (接木雜種、キメラ等)、公式は兩親の名をアルファベット順にし + の記號によつて結んだものである。其の名はこれに對する有性雜種 (若しあれば) の名と異なる種的形容詞を有し、+ の記號が其の前につく。

有性雜種の例: × *Salix caprea* (*Salix aurita* × *caprea*), *Digitalis lutea* ♀ × *purpurea* ♂; *Digitalis purpurea* ♀ × *lutea* ♂.